

令和3年度 授業改善に関するカリキュラム・マネジメントリーダー研修 成果報告書

学校名	大阪府立河南高等学校	名前	
-----	------------	----	--

1 学校教育目標（めざす生徒像）

「未来を見据えて、自ら目標を定めて、挑戦する生徒」

これまでの授業力P Tの活動

令和元年度 河南高校の「理想の生徒像」（めざす生徒像）を決定

「理想の生徒像」に基づき、新カリキュラムを決定

令和2年度 「考える授業」をテーマに授業改善

令和3年度 「主体性をはぐくむまたは主体性をはかる授業」をテーマに授業改善

2 令和3年度の校内研究の取組み

(1) 研究テーマ及び設定理由

①研究テーマ

- ・「主体性をはぐくむ授業づくり」
- ・観点別学習状況の評価の実施に向けた情報共有および試行

②テーマ設定理由

教員間で出し合った「河南生の弱み」のなかに、主体性が乏しいという意見が多数あった。生徒が前向きにチャレンジすることや、主体性を持って行動するようになるために、授業内において生徒が主体的に活動や発表をでき、また、それを教師が評価することのできる場を設ける必要性があるため。

(2) 校内研究の取組みについて

①研究の基本的な考え方・全教職員で共通理解したこと（明確化した今年度のポイント）

- ・めざす生徒像と、今年度の目標、課題の共有
- ・教科のくくりを基本としたグループを編成し、主体性を育て、主体性を評価するために教科としてできることを考える。また、他教科の事例を共有することで良いアイデアを取り入れ合う。
- ・全体研修を実施。各教科の研究授業をピックアップするとともに、京都大学 石井准教授や指導主事による講演を通じ、授業改善に取り組む。

②具体的な取組み

- ・研究授業・研究協議の実施
「主体性をはぐくむ授業」または「主体性をはかる授業」をテーマに、授業改善を考える機会を設けた。
- ・全体研修（外部講師による講演）を通して、新学習指導要領と観点別学習状況の評価に関する知識を深め、次年度に向けての準備を行った。
- ・観点別学習状況の評価の試行を行い、内規の素案を教務部に提案した。

③取組みの検証方法

- ・研究協議

生徒の姿は、どのような姿であればよいのか、どのように評価するのかといったことについて議論をし、教員間で共有した。

- ・教科での会議

生徒に対してどのような姿を望むか、どのように主体的に学習に取り組ませるか、そしてどのように評価するのかということについて、それらの詳細を教科の特性に応じて議論した。また、観点別学習状況の評価についても、議論をする場を設け、教科会議を例年以上に設定した。

3 取組みの検証

(1) 校内研究の成果

①教員アンケート

- ・質問項目「期待に沿った研修になったか」において、肯定的評価が 88.5%だった。
- ・研究授業実践報告で、研究授業担当者が実践したことを、取り入れていきたいと感じた教員が多かった。

②3学期の教科会議

- ・教職員に観点別学習状況の評価を実施するにあたっての不安や問題点は残っている。次年度、1学年の事例をもとに、細かな点を修正したり、説明して情報共有を図る必要がある。

③観点別学習状況の評価の試行実施

- ・問題点や疑問点などを抽出できた。
- ・「観点別学習状況の評価のガイドライン」という形で、教務部と連携した。

(2) 生徒の変容（授業改善により生徒にどのような育ちが見られるか）

①授業アンケート

全体の平均が上昇した。

3.16（令和元年度）→ 3.25（令和2年度）→ 3.35（令和3年度）

②学校教育自己診断結果

授業に関する項目で、平均が上昇している。

質問項目「全体的に授業はわかりやすい」 肯定的評価 77.1%

質問項目「先生の教え方には、さまざまな工夫がなされている」 肯定的評価 87.8%

→生徒の主体性という点では、研究授業を9月に設定し、コロナ感染者の多い時期にあり、生徒同士で対面の会話等ができず、中長期的に「主体性」の育ちを正確に数値化できる情報を得ることが困難だった。

(3) 教員の変容（授業改善により教員が何を学んだか・どんな感想をもったか）

①教員アンケート

- ・質問項目「期待に沿った研修になったか」で、肯定的評価が 88.5%だった。

- ・研究授業実践報告で、研究授業担当者が実践したことを、取り入れていきたいと感じた教員が多かった。

②Chromebook の導入により、教員の授業における I C T 活用率の大幅増加

- ・新課程にともなう学習評価の見直しという「制度の改革」を授業改善の良い機会としてとらえ、Chromebook の利用を通じた双方向の授業などを実践する教員が増えてきており、使用方法やアプリの有効活用など、教員間での教え合いや情報交換の場面が見られた。



▲Chromebook を用いた授業風景

4 今後に向けて

(1) 今年度の課題

①理想の生徒像に近づけることができたかという課題

生徒の主体性という点では、授業の内外で発揮させ、評価するということはできたが、1年間の研修等を通じた前後でどれだけの育ちが見られたかという点を数値化するのが難しかった。

進路状況を一つ取ってみても、指定校推薦などの学校推薦型で進路決定した生徒が増加し、「挑戦する」ことを生徒に促す余地があったと感じられる。

また、観点別学習状況の評価をどのように進めていくかということにかなりの時間を割いたため、「生徒の主体性を育てる」という授業改善に関する議論が薄くなってしまったと感じる。

(2) 次年度に向けて

①年度内の取組みにしてしまうのではなく、継続的に行っていく必要がある。

②授業や定期考査を通じて主体性を育て、主体性が育ったかどうかを数値上の変化を見取り、検証することができるしくみを整える。

③「観点別学習状況の評価のガイドライン」にもとづいた成績評価を行い、教員の意見をまとめ、必要に応じて修正の提案を行う。

令和3年度 校内研修年間実施報告

1 令和3年度の目標(テーマ・主題)

<p>理想の生徒像：「未来を見据え、自ら目標を定めて、挑戦する生徒」を育む 「主体性をはぐくむ授業」または「主体性をはかる授業」をテーマとした授業改善</p>
--

2 実施日・内容等

月	日	校 内 研 究 の 実 際	
		研究推進委員会 等	教職員全体研修会 等
5	18	PT チーム発足・目標の確認	
	27	指導主事の先生方との打ち合わせ (今年度は数学・地歴公民) 今後の詳細の計画を決定	
6	3		教職員全体研修(第1回)(職員会議内) 新評価・今年度の取り組みについての説明
			教科会議 授業内・考査での観点別評価の説明、研究 授業者の決定など
	29	PT 各教科会議での検討結果報告	
7		観点別評価の試行	
8	20	PT 観点別評価の試行の報告	
	26	PT 研究授業の詳細、指導案等	
9		研究授業(教科会議の時間に実施)	研究協議(教科で)
	13	京都大学石井准教授や指導主事を招き、 研究授業を実施	
10	7	PT 全体研修の事前打ち合わせ	
	13		教職員全体研修(第2回)(石井准教授、指 導主事による)
11	16	PT 全体研修の振り返り、観点別評価 の試行についての確認事項等	
12			観点別評価の試行実施(全教職員)
1			教科会議 議題：考査による評価、成績評価の感想・ 意見・問題点を集約
	27	PT 観点別評価の試行実施の結果報 告と、問題点・疑問点などの共有、ガイ ドラインについての議論	
2	3		職員会議内 観点別評価の試行実施の結果 報告と、問題点・疑問点などの共有

令和4年度 校内研修年間計画

1 令和4年度の目標(テーマ・主題)

<p>「未来を見据えて、自ら目標を定めて、挑戦する生徒」 生徒アンケート・教員アンケートの実施を通し、数値上の変化を見取るしかけづくり</p>

2 年間予定

月	日	校 内 研 究 の 実 際	
		研究推進委員会 等	教職員全体研修会 等
4		PT チーム発足 目標の確認 役割分担	
			職員会議 課題・目標の確認 教員アンケート実施 生徒アンケート実施 研究授業者の公募
5			教科会議 中間考査の考査問題報告
		PT 中間考査の考査問題報告の振り返り 研究授業者の決定 研究授業の詳細、指導案等 全体研修の打ち合わせ	
6			職員会議 研究授業の詳細、指導案等
		PT 全体研修の事前打ち合わせ	
			教職員全体研修 中間考査の考査問題報告 アンケート結果報告
7		PT 1学年の成績評価について報告	職員会議 1学年の成績評価について報告
8			研究授業・研究協議 (グループごと)
9			研究授業・研究協議 (グループごと)
10		PT 研究授業・研究協議 振り返り	職員会議 研究授業報告
12			教員アンケート 生徒アンケート
		PT アンケート結果 観点別評価の問題点・疑問点などの 共有、ガイドラインについての議論	
2			職員会議内 アンケート結果報告 観点別評価の結果報告と、問 題点・疑問点の共有